

## 【引用・参考文献】

- ・ 石隈利紀著『学校心理学』 1999 誠信書房
- ・ 茨城県教育研修センター『児童生徒の自己実現を援助する学校教育の在り方』  
研究報告書第37号 平成12年3月
- ・ 大野太郎らストレスマネジメント教育実践研究会編『ストレスマネジメントテキストブック』  
2002 東山書房
- ・ 月刊生徒指導『学校と関係機関との行動連携』 2004 8月号 学事出版
- ・ 小泉英二編著『学校教育相談・初級講座』 1995 学事出版
- ・ 國分康孝編『カウンセリング辞典』 1990 誠信書房
- ・ 國分康孝監修『現代カウンセリング事典』 2001 金子書房
- ・ 國分康孝監修 小林正幸・相川充編集『ソーシャルスキル教育で子どもが変わる』  
1999 図書文化
- ・ 埼玉県立南教育センター教育相談部『学校における生徒指導・教育相談の進め方 - カウンセリグ  
の考え方を生かして - 』  
調査研究紀要 平成12年3月
- ・ 齊藤 優・諸富祥彦編『授業の技を極める40のコツ』 平成16年 教育開発研究所
- ・ 坂野勇二監修 嶋田洋徳・鈴木伸一編著『学校、職場、地域におけるストレスマネジメント実践  
マニュアル』 2004 北大路書房
- ・ 佐賀県教育センター [http://www.saga-ed.jp/kenkyu/kenkyu\\_chousa/index.htm](http://www.saga-ed.jp/kenkyu/kenkyu_chousa/index.htm)
- ・ 全国教育研究所連盟編『学校教育相談のとらえ方・学び方・進め方』 平成元年 ぎょうせい
- ・ 千葉市教育センター『「心の居場所」としてのよりよい学級づくり - 人間関係に着目して - 』  
報告書 平成11年3月
- ・ 福岡県教育委員会、福岡県教育センター『不登校の解消をめざして』研究紀要 平成16年2月
- ・ 森谷寛之、杉浦京子、入江茂、山中康裕編『コラージュ療法入門』 1993 創元社
- ・ 諸富祥彦編『学校現場で使えるカウンセリング・テクニク上・下』 1999 誠信書房
- ・ 諸富祥彦編集代表 水野治久・大竹直子編集『教師が使えるカウンセリング』 2004 ぎょうせい
- ・ 山中 寛・富永良喜編『動作とイメージによるストレスマネジメント教育』 2000 北大路書房
- ・ 文部省『小学校学習指導要領解説 総則編』 平成11年5月
- ・ 文部省『中学校学習指導要領』 平成10年12月
- ・ 国立教育政策研究所生徒指導研究センター『児童生徒の職業観・勤労観を育む教育の推進につい  
て』  
調査研究報告書 平成14年11月
- ・ 鹿児島県教育委員会『「仲間や自然とかかわる体づくり」指導の手引き』 平成15年3月
- ・ 鹿児島県総合教育センター『まなざしの教育相談 - 定期的教育相談を通して - 』  
指導資料教育相談第94号 平成6年8月
- ・ 鹿児島県総合教育センター『学校における教育相談活動の充実を目指す研究 - 不登校児童生徒へ  
の対応の在り方 - 』  
研究紀要第94号 平成12年3月
- ・ 鹿児島県総合教育センター『不登校への予防的対応に関する研究』  
研究紀要第100号 平成14年3月
- ・ 鹿児島県総合教育センター『不登校児童生徒への指導・援助の在り方に関する研究 - 保健室等登  
校児童生徒への対応を通して - 』  
研究紀要第106号 平成16年3月

### 【調査研究担当者】

教育相談課	課長	天野	芳子
教育相談課	係長	迫田	孝志
教育相談課	研究主事	赤崎	晃洋
教育相談課	研究主事	帆西	弘幸

### 【前調査研究担当者】

県教育庁学校教育課	指導主事	岡留	秀一（前教育相談課研究主事）
-----------	------	----	----------------

### 【調査研究協力者】

県教育庁保健体育課	指導主事	深町	富美子（研究協力員）
日置市立伊作小学校	教諭	川添	正行（研究協力員）
薩摩川内市立平佐西小学校	教諭	柳井田	望（研究協力員）
薩摩川内市立永利小学校	教諭	福山	里美（研究協力員）
鹿児島市立武中学校	教諭	玉利	勝美（研究協力員）
県立鹿児島東高等学校	教頭	近藤	伸子（研究協力員）
県立開陽高等学校	教諭	木村	いく（研究協力員）
いちき串木野市立羽島小学校	教諭	新富	浩子
鹿児島市立西紫原中学校	教諭	村岡	潤一
鹿児島市立清水中学校	教諭	迫田	茂之
名瀬市立名瀬中学校	教諭	感王寺	等

### おわりに

当センターでは、これまでの不登校に関する一連の調査研究や相談等の成果・実績を踏まえ、平成16年度から「児童生徒一人一人を生かす教育相談活動の在り方に関する研究」についての調査研究を進めてきた。

1年次は、県下の小、中、高、盲・聾・養護学校を対象に教育相談に関する児童生徒の実態やニーズ、教職員の意識及び学校における教育相談活動に関する実態調査を実施し、現状と課題を把握した。その課題を踏まえて、児童生徒一人一人を生かす教育相談活動の在り方についての方策を整理した。

また、指導資料第117号「児童生徒の意欲をはぐくむ教師のかかわり方」、第118号「児童生徒理解に生かす教育相談」を刊行し、一人一人を生かす教育相談活動の在り方について、具体的に提示した。

2年次は、更に研究を深めるとともに、当センター及び調査研究協力者の実践事例を基に本紀要にまとめ、指導資料第119号「進路指導に生かす教育相談の在り方」、第120号「授業のできるストレスマネジメント教育の実際」を刊行した。

今後、各学校においてこの研究内容が、児童生徒一人一人を生かす取組の一助になれば幸いである。

最後に、本研究を進めるに当たって、実態調査に御協力いただいた各学校及び実践事例を提供していただいた調査研究協力者の皆様、適宜御助言いただいた鹿児島大学教育学部心理学科の大坪治彦教授に厚くお礼を申し上げたい。

研究紀要 第110号  
児童生徒一人一人を生かす教育相談活動の在り方に関する研究

平成18年3月27日発行

発行者 鹿児島県総合教育センター  
〒891-1393  
鹿児島市宮之浦町862番地  
電話 099-294-2788(教育相談課)  
FAX 099-294-2309  
URL <http://www.edu.pref.kagoshima.jp/>